

宮本憲一先生「日本学士院賞」祝賀会

一昨日、4日に京都の立命館大学朱雀キャンパスで、宮本憲一先生「日本学士院賞」記念シンポジウム&祝賀会があった。

写真は祝賀会で特別招待者の水田洋先生が挨拶されている時のものだ。写真左の掲示は授賞式の際に使われたポスター。水田先生は宮本先生の名大時代の先生であり、日本学士院会員である。宮本先生の学士院賞受賞の経過などを先生らしく語られた。そのあと宮本先生がマイクをとり、水田先生が97歳になられたことを紹介すると、会場から大きな拍手があった。



じつは、会場に着いたのは記念シンポジウム終了のすこし前だった。そのわけは後から書くことにして、嬉しいことを先に書いておきたい。祝賀会で何人かの人に聞いたが、パネル・ディスカッション司会の寺西俊一・一橋大名誉教授(日本環境会議理事長)が、討論「まとめ」のなかで私のレポート(ブログ)を紹介したという。



寺西教授に確かめたら、今年6月25日の「パトスの重要性」と題したフェイスブックに投稿したレポートであった。

これは1985年に足助で開催された「宮本憲一ゼミナール」記録集から、宮本先生の実験者に向けた発言を紹介したものだ。毎朝書いている私のレポートを多くの研究者らに紹介してもらえて、こんな嬉しいことはない。書き続ける励みになる。寺西教授に感謝したい。残念なのは、この発言の際に会場にいなかったことだ。

今回、京都には水田先生とご一緒した。ご一緒するのは、これで3回目だ。先生のご自宅に伺って、バス・地下鉄で名駅まで行き、新幹線で京都に。京都から再び地下鉄でホテルまで。しばし休憩して、会場までタクシーで行った。

猛暑と天候不順のなか3時間余りの「道中」。3回目ということもあり、あまり緊張せず、先生の話が聞くことができた。北杜夫さんや加藤周一さんの話から、現在の政治状況など、興味深い話に時間を忘れるほどだった。先生に自伝『ある精神の軌跡』続編も書いてほしい、と「注文」を出しておいた。これについては、またレポートに書いていきたい。祝賀会も早めに退席したが、忘れがたい半日となった。

(2016年9月6日)